中学校の部　第７分科会

主体的に学ぶ生徒の育成

～「自分の意見や考えを話して伝える活動」を帯活動と

交流活動をとおした授業で実践する単元計画の工夫を通して～

発表者：那覇市立石田中学校　赤嶺　太介
助言者：福岡大学　　長　加奈子

１　研究目的

学習指導要領の改訂に伴い、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が、「生きて働く知識及び技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びに向かう力・人間性等の涵養」の三つの柱に整理された。各教科等の目標や内容についても、これら三つの柱に基づいた学習指導及び学習評価がなされるよう提言されている。また、生徒が学校教育外においても、生涯にわたり継続して外国語習得に取り組もうとする基盤が培われるよう、「主体的に学習に取り組む態度」を養うことが掲げられており、その重要性は高い。

生徒の「主体的に取り組む態度」を養うにあたっては、生徒が興味を持って取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動を工夫したりする等、様々な手立てを講じた指導を行うことが大切であるとされている。

よって本研究では、帯活動及び交流活動等において実践する「自分の意見や考えを話して伝える活動」が段階的かつ継続的なものとなるよう単元計画の工夫を行い、その取り組みの中で、生徒が「自分のできること・できるようになりたいこと」に自ら気付き学習を進めることができる態度の育成を目指す。

２　研究内容

（１）単元計画の工夫

単元計画の作成にあたっては、初めに、明確な「単元のゴール（目指す生徒の姿）」の設定を行った。本単元のゴールは、「友達に自分のことをより知ってもらうために、自分のお気に入りの人物を紹介する」である。生徒が単元のゴールを達成するために必要な言語材料等を、日々の授業から習得できるよう、各授業での取り組みを工夫し、逆算的（バックワードデザイン）に単元計画を作成した。

（２）段階的かつ継続的な表現活動

「教科書の例を真似する」、「教科書の例を参考にする」、「教師の例を自分事に置き換える」、「自分自身の意見や考え等を述べる」のように、単元が進むにつれて、生徒がより自由度の高い表現に取り組めるよう、帯活動及び交流活動の考案、実施計画を作成した。また、単元計画内に交流活動を多く取り入れる期間を設け、他者の意見や考えを参考にしながら、「学習したことをどのように活用すれば、より自分自身の意見や考え等が表現できるか」を生徒に考えさせる取り組みも行った。

３　成果と課題

（１）成果

「単元のゴール」を明確に設定し、逆算的に単元計画を作成することで、日々の授業において教師が「生徒に身に付けさせたい力」を把握することができ、指導に生かすことができた。また、帯活動と交流活動を段階的かつ継続的に設定することによって、生徒が「できるようになってきたこと」を積極的に活用する様子が見られた。「できるようになりたいこと」を達成する手段として、「教科書から使えそうな表現を見つける」や「友だちの真似をする」等を積極的に行う生徒が増えた。

（２）課題

生徒が「自分のできること・できるようになりたいこと」に気付く機会を多くするため、「使ってみる」「考える」「再度使ってみる」の表現活動を繰り返したが、当初の想定よりも時間を要した。授業の途中または単元の途中に、適切な例や汎用性が高い例を、「中間指導」の形で全体共有する場を設けることにより、効率的かつ効果的に活動を行うことができたと考えられる。